

私の一冊

こども学科 菊地 篤子 先生

渡辺 和子 著 『置かれた場所で咲きなさい』

小鹿図書館 159/W 46

私がこの本を知ったきっかけは、十数年ほど前に、あるテレビ番組で紹介されていたことです。当時ノートルダム清心学園理事長だった渡辺和子先生が書かれた言葉の数々が、慌ただしく過ごしていた私の心にとってもスムーズに浸透してきました。同時に自分に余裕がなかったことに気付き、一呼吸置くことの大切さを思い出させてくれた一冊でもあります。

この本は、目次の項ごとに独立していて、気になった部分から読むことができます。それぞれにテーマが揚げられていて、著者の願いや想いを明確に知ることができます。タイトルでもある「置かれた場所で咲きなさい」は第1章「自分自身に語りかける」の最初の項「人はどんな場所でも幸せを見つけることができる」に記されており、現在というかけがえのない時間を精いっぱい生きよう…というメッセージでこの項は閉じられます。当初は第1章に目を通すことが多かったのですが、最近は第2章「明日に向かって生きる」や第3章「美しく老いる」の中にも、自分に照らし合わせたり、なるほど！と合点がいたりすることが増えてきました。今回はその中の2つを紹介します。

●「いい出会い」を育てていこう…いい出会いにするためには自分が苦労して出会いを育てなければならない。

年齢を重ね、職業や家族の在り方が落ち着いてくると、意外に少ないのが「新しい出会い」です。実はここ数年で趣味を通して新しい友人ができ、日々の楽しみが増えました。ちょっとしたきっかけと勇気が必要だったのですが、最初の一步を踏み出せたことが今につながったね、と友人とお互いを褒め合っています。相手を敬いつつ程よい距離感を持って、この関係性を育みたいと思います。

●愛情は言葉となってほとばしる…相手を生かすぬくもりのある言葉を使える自分でありたい。

現代の文字情報過多な時代の中、言葉の素晴らしさよりも恐ろしさのほうに際立っているような気がしてなりません。“ぬくもりのある言葉”とは相手の心を豊かにする言葉だと思いますが、さて、自分は使うことができているだろうか、と自問自答し続けています。

折々の自分の立場や状況によって、同じ書籍の中でも気になる部分が違ったり、解釈が変化したりするのも面白いものです。好きなページを少し丁寧に読むことで、心なしか穏やかな気持ちになりますよ。是非、お気に入りのフレーズを見つけてください。